

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人シルバーの森夕照苑		
事業所名	シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市富士見台44番14号		
自己評価作成日	平成28年10月27日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で四季折々の行事を大切に、季節感のある生活を営んでいただく。日々の食事では、旬の食材を中心に栄養価、美味しさを考慮、工夫し、満足していただける食事の提供を行っている。また、季節の行事に合わせ、外出に出かけたりもしている。・「私らしく穏やかに過ごす」を理念に、ご家族や地域と連携し、1人1人にケアに取組み、穏やかに過ごしていただけるよう努めている。・利用者様が今までの生活をできるだけ継続し、毎日をご過ごされるように、食器ふきや洗濯物畳みなど家事手伝いに参加いただき、本人の持っている能力の維持に努めている。・利用者様の安眠と健康状態の確認のため、毎晩全員の足浴を行っている。・連絡ノートに日々の利用者様のちょっとした変化を記録し、スタッフ全員で情報共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年4月に開設し、平成27年5月に新築移転した事業所である。入居者と家族の絆を大切に、地域との交流をすすめ、利用者とともに家族も安心感、満足感が得られるように取り組んでいる。医療連携体制加算を取入れ、月2回の往診、毎週訪問看護師の検診があり、入居者の健康・安全の確保に努めている。職員は明るく優しく、節度ある態度でケアに取組み多くの家族から感謝の言葉を得ている。食事は職員の心のこもった手作りで、入居者も食材の下拵えや後片付けに参加し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。明るく広く、整理の行き届いた居間で入居者は、地域やボランティアの皆さんによるお琴やハーブの演奏、カラオケや体操等を楽しみ、洗濯物を畳んだり苑内の掃除の手伝いなど現存能力の活用に取組み、明るく元気に生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護プランについて話し合い、ケアプランに沿って行動している。スタッフが悩んだときは理念の原点に戻るようになっている。	理念で「私らしく穏やかに暮らす」と謳い、玄関・廊下に掲示し苑だよりに掲載している。職員は日常のケアに活かし、入居者の満足感・安心感が得られるように努め、地域での生活の継続支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の隣に住宅が建ち並んで来ているが、交流にはまだまだ時間がかかるようである。	地域ボランティアによる楽器演奏、中高生の職場体験を受入れ、町内会、自治会に加入している。町内会の会合出席を通して、地域との交流に前向きに取組み、小学校の通学見守りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当所への移転により施設が以前に比べ広くなったため、今年は中学生や高校生の職場体験に力を入れた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での困りごとについて相談し、アドバイスを受けている。	包括支援センター、自治会長、地域住民等が参加し隔月に開催している。行事内容、運営状況、外部評価結果を報告し、管理者療養、近隣からの苦情等を報告・相談している。、議事録は全職員に回覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括や介護保険課で相談し、指導をいただいたり、話し合いの場を持ったりしている。	市介護保健課には運営状況の報告、介護保険法施行内容の指導を受け、毎月介護指導員1名を受け入れている。包括支援センターには活動内容・地域交流課題などを報告・相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが当たり前であるが、スタッフの対応を観ながら、その時々に応じた指導をしている。	身体拘束に関する苑内研修会を開催し、自由の拘束は異常と認識し、管理者、職員間でお互いに注意し合いながら、日常ケアに活かしている。玄関は夜間以外施錠せずチャイムと見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが利用者様の立場に置き換えて、考えるようになっている。基本は、利用者が「イヤ」と感じることは止めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネが外部の成年後見制度に関する研修に参加し、月1回のスタッフ会議で伝達研修を行い、現在、成年後見制度を利用している利用者様の事例で具体的に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一つ一つ説明し、理解していただけるように確認をし、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、意見箱を事務所横に設置している。ご家族訪問時には、必ず家族と話をするように心掛け、家族の希望や意見を言いやすい状況を作っている。いただいたご意見や希望にどのように対応しているかについても報告し、運営の改善に役立っている。	毎月苑だよりを発行し家族に入居者の様子を知らせている。家族来訪時は笑顔で迎え入れ、入居者の生活状況を報告し、家族の意見・要望を話し合っている。家族の要望で、介護用品や茶碗買い換えの事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に職員全員で会議を行い、意見が出やすい状況を作っている。各人からの意見を聞く姿勢を持ち、どのように対応したかを職員にわかりやすく、口頭または文書で伝えている。	管理者は日常的に職員との話し合いをし、職員も報告・相談・提案を積極的に行っている。提案内容は朝礼で報告し職員会議で協議している。職員提案で苑だよりの他に、毎月家族へ入居者の近況報告を作成・送付している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も積極的に介護現場に入り、利用者と密に関わりながら、職員一人一人がやりがいを持って仕事に取り組めるよう、食事作りや薬の管理、行事の企画等役割を分担して活気ある職場を作ろうとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を随時職員に伝え、行政主催の出前講座等を積極的に利用して、職員に必要な研修が確実に受けられるような体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加盟し、情報の交換や施設の開放、他事業所職員と交流できる研修への参加の機会をつくる取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートの内容を熟知し、趣味や好きなことから話を展開させ、利用者様とコミュニケーションを深めていく。話しやすい環境をつくることで安心感をもっていただき、また利用者様が困っておられることや不安になっておられることに対し、職員が丁寧に対応する姿勢をみせることで信頼感をもっていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入については、利用者様だけでなく、ご家族様の心のケアもとらえている。利用者様が「ここに入所して良かった。」と思っていただけるように、ご家族様ともコミュニケーションを取り、要望をお聞きすると同時に施設についての理解や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートの内容からいろいろなリスクも読み取り、まずは利用者様が居心地良く、快適に安心して過ごすことができる支援を行っている。その後、経過を見ながら、家族とも何度も話し合い、利用者様にあった支援を細かく考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員と一緒にできる仕事を協力し合って行うことで、ご自分の役割や「私もまだまだできる！」という実感をもっていただけるような環境づくりをしている。そして、「ありがとう」の感謝の気持ちと共に労いの言葉を忘れず伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には「夕照苑だより」をお送りしたり電話連絡により、利用者様の苑での様子を知っていただいている。また、ご家族との面会や外出など「ふれあいあいの場」をもっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活歴や友人関係、愛用の品などを教えてもらう。 友人やご近所の方の訪問を歓迎している。 夕照苑だよりで、近況を知っていただけるよう努めている。	職員はフェイスシートで馴染みの場所や人を把握し、友人、知人への年賀状や季節毎の手紙などの出状を支援している。事業所内に地域交流室を設け、美容院開催や地域老人会との交流会など、馴染みの人との交流に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格をよく知った上で、同じように皆が関わるように努めており、レクや共同作業をする中で人間関係を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のその後の様子や情報をうかがい、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とご家族様の思いを聞いて、できるだけ希望に添えるよう努めている。	日常ケアの基本姿勢を「入居者の思いをよく聞き・受入・理解する」とし、目を合わせ、表情・行動から思いや意向の把握に努めている。得た情報は日誌に記録して職員で共有し、把握困難な時は家族に相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族様からこれまでの生活歴を聞き取り、個人のケアプランを作成し、利用者様本人にとって最適な日常生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々との会話や共に行動していく中で、ご本人が求めている日常生活をさぐり、心身状態に応じた内容の手伝いをしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、全職員だけでなくご家族様にも参加していただき、ケアプランをケアマネージャーが作成し、モニタリングをしている。	毎日のモニタリングを通してアセスメントを行い、本人・家族・医師の情報を基に、3カ月毎及び状態急変時に介護支援専門員が介護計画書を作成し、家族の同意・承認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を分かりやすくするため、プランに番号をつけ、プランに沿った記録を取り、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。3ヶ月毎に必ず介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者様のニーズに基づき、マッサージ師、歩行訓練指導員、体操講師などに来ていただいております。日々のレクリエーションには力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、ご家族、地域包括センター職員、自治会長、当苑理事、ケアマネ、スタッフなどに参加してもらい、現状報告の後、意見をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医の診察を希望される場合は、月2回受診していただき、必要に応じて地域の中核病院と連携し対応している。また、かかりつけ医の受診を希望される場合は家族様につき添い受診をお願いしている。	家族の要望で、入居者全員が協力医をかかりつけ医とし、2週間毎の往診、毎週訪問看護師の検診を受けている。認知症診断は事業所職員が同行し、受診結果を家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による、利用者様の体調確認やそれに対するアドバイスをいただき、情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核病院に入院していただき、ご家族、医師、看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携により、週1回訪問看護ステーションより看護師の訪問を受け、看取りも行うようにしている。 現在、終末期に近い状態の方がおられ、ご家族と話し合いながら対応している。	医療連携体制加算を導入し、重度化と看取りに関する指針、急変時の対応に関する意思確認書を文書化し、入居時に家族と合意・確認を得ている。内部研修で看取りの在り方を周知し体制を整えているが、看取り事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命訓練や防火訓練を行い、利用者様の急変や事故に備えている。 風水害に対応するための避難訓練や講習会を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年5月に移転し、近隣との関係は少しずつ出来つつある。 今後は、自治会にも防火訓練や防災訓練に協力にいただけるよう働きかける予定である。	年2回昼夜間想定避難訓練(内1回は消防署立会い)を実施している。火災報知器、防犯カメラ、防犯灯、避難誘導灯を設置し、食料、飲料水、オムツも備蓄している。地域の協力、参加は得られていない。	地域の協力・参加による避難訓練・誘導への地域協力体制整備に取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報を利用者様やご家族、来訪者等の目にふれない場所に置いている。より厳重に管理しなければならない個人情報については、鍵のかかる場所に保管している。利用者様の性格を知り、言葉遣いに気を付けて対応している。	毎年個人情報に関する内部研修を開催し、職員にプライバシー保護に関する基本ルールの周知に努めている。職員は入居者の人格を尊重し、言葉かけやケアに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望に耳を傾け、日々の会話の中からご本人の思いなどを聴き取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを大切にしている。 利用者様の意見や希望に耳を傾け支援につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。 季節にあった服装やご本人の意見などを聞いて、おしゃれを楽しんでいただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が順番にメニューを考え、調理法、色彩、栄養バランス等工夫しながら料理している。食事中は、スタッフもテーブルに仲間入りし、一緒に食事を楽しみながら、食べ残しや好き嫌いに注意している。後片付けは役割を分担して行っている。	食事は職員の手作りとし、入居者希望のメニューや刻み食を取入れている。入居者も食事準備、後片付けに参加し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。毎月中華料理店への外食や園庭でのバーベキューも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常にコップは、利用者様の前に置き、季節、天候に応じている。時間を決め、ジュースやスポーツドリンクを提供し、水分不足にならないよう補充に気を配っている。摂取量は、記録し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夜に口腔内ケアを行っている。その都度、スタッフが側に居て利用者様の様子を見守っている。夜は、全員の義歯をスタッフが洗浄、消毒をして預かっている。義歯でない方には、食後、丁寧に歯磨きをさせていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介助が必要な利用者様には、時間を見計らって声かけをした上、トイレに誘導し、見守りながら排泄を済ませていただく。 自立して排泄できる方は、様子を見ながら、注意深く見守りをしている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、自立に向けたトイレ誘導を支援している。座位の保てる入居者にはトイレ誘導に努めており、職員の声掛けでリハビリパンツからパンツへの成功事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一定の時間、トイレに座っていただいたり、水分補給をしたり、時計回りに腹部をマッサージしたり、適度な運動を行うようにしている。食事では、食物繊維を摂取できるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日入浴していただいている。 入浴時、利用者様の健康状態を確認している。	入浴前のバイタルチェックを行い、隔日の入浴を基本に本人の希望の時間に入浴している。毎夕食後に足浴を行い、入浴拒否者には入浴日を見直しをしている。2人浴も取入れ、浴室は入浴の都度清掃し清潔である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、足浴を行うことにより、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた服薬時間に、スタッフの見守りのもと、服薬していただき、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、配膳の準備、食器拭きなど家事手伝いを積極的に取り入れている。 気分転換のため、外気浴や外食等をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設全面道路の交通量が多いので、散歩に出かけるのは難しいが、玄関付近で外気浴をしている。	前面道路の交通量を考慮し、日常的な外出は園庭の散策や日光浴を中心としている。季節毎に周辺の公園や茶臼山への散歩に出掛け、外食や買い物にも出掛けている。外出機会を増やすためにボランティアの活用を検討している。	ボランティアの協力による外出機会を増やす取組をすすめて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預かっていない。 必要な物があれば、ご家族様に連絡をし、購入を依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に施設の電話を使っていたい。 ご家族様からの手紙を大切にしている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットが分かれているが、中庭があるので、窓を通して利用者様全員の顔が見える。	居間は明るく・広く、換気に留意し、清潔で居心地良く過ごせるように努め、壁側に季節の草花や入居者の作品を飾っている。居間ではボランティアのギターやハーブの演奏を聞き、体操等も楽しんでいる。トイレ・浴室はバリアフリーで広く清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周囲に各居室が配置されており、自由に入出りができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具を持ち込んでおられる利用者様もおられる。	居室にはクローゼット、ベッド、空調機を備え、職員手作りの表札を掲げている。入居者は小道具や家族写真の他、仏壇を持ち込まれる方もいる。居室は毎日清掃・換気し清潔で、寝具専用掃除機の導入も計画している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、風呂、トイレ、リビングに手すりが取り付けられているので安心して苑内を自由に散歩しておられる。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域交流を行う。	地域の行事に参加する。	事前に行事案内があるので、確認し、スタッフと共に参加する。 防火訓練など参加するように心掛ける。	12ヶ月
2	49	外出支援が少ない。	可能な限り散歩に同行する。	夕照苑を応援して下さるボランティアさんなど、曜日を決めて協力してもらう。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。